

南陽高生のタオル 「地元と絆深める」

デザイン募り商品化

名古屋市港区の南陽高校の3年生2人が3種類のスポーツタオルを商品化し、28日から販売する。「商品開発」の授業の一環で、生徒たちは「地域との絆を深



開発したスポーツタオルを持つ生徒たち。名古屋市港区の南陽高校

めたい」とデザインの募集から選定、発注、販売まで一貫して取り組んだ。

生徒たちは4月から「地域で暮らす人たちが気軽に使えるもの」をコンセプトに商品づくりを始めた。南陽地区は運動行事が多いことに着目。マグカップや缶バッジ、マウスパッドなど、さまざまなアイデアの中から取り扱う商品をスポーツタオルに決めた。

「南陽らしさ」をテーマに、地元南陽、福春、福田、西福田の4小学校区内の人たちを対象にデザインを募集。生徒たちは小中学校のほか、商店や老人ホーム、喫茶店などに足を運びチラシを置いてもらった。立田泰さん(18)は「商品づくりを通してたくさんの人たちと触れ合うことができ

約2カ月間で175点の応募があり、校内で「商品デザインコンテスト」を開催。全校生徒による投票の結果、小中学生の部は奥村

匠真君(福田小)と山田結菜さん(南陽東中)、一般の部は斎藤優佳さんの作品がそれぞれ選ばれた。

この地域は米づくりが盛んなことから、奥村君のデザインには「米粒君」と名付けたイラストに「のどか

なんよう」の文字が添えられている。

きょうから販売

タオルは全部で190枚作製し、価格は1枚400円(税込)。28日は同市緑地公園で開かれる「南陽地域ふれあいまつり」で、11月18日は同区大西1丁目の「JAなごや南陽町支店」のイベント会場で生徒

たちが販売する。学校でも注文を受け付ける。

商品化に携わった斎田泰希さん(18)は「想像以上の出来栄で驚いている」、大網実花さん(17)は「デザインのテーマを伝えるのが難しかった。力を合わせて販売を目指したい」と張り切っている。問い合わせは南陽高校の産交教諭(平日のみ、052・301・1978)。(松水佳伸)